

東京 IPO 特別コラム

2016年11月21日 Vol.58

公開価格や初値を割れた銘柄の投資は有効か

トランプ相場で盛り上がった株式市場ですが、まったく蚊帳の外に置かれている銘柄も多々あり、やや投機的な流動性重視の展開が続いたとの印象を持たれている皆さんもお見えになるものと拝察致します。全体相場の上昇の中で IPO 市場に目を転じると公開価格や初値を割り込んだまま推移する直近公開の銘柄もあり、全体的には明るい展開とは言え、二極化の展開が続いていると言っても良いかと思えます。

水準訂正が一巡した後の株式相場は冷静さを取り戻し、再び個別銘柄の業績を背景にした出遅れ銘柄探しや材料株、テーマ株探しが始まることが予想されます。株価の下落にはいくつかの背景があり初値割れはともかく公開価格割れは株式を公開した企業側にも問題があるという指摘がなされるのかも知れません。2016年中にこれまで IPO した64銘柄の中で公開価格を割り込んでいるのは17銘柄ですが、IPO 後に株価低迷が続くのは企業にとってはイメージダウンにもつながりかねません。認知度が低いだけで業績に特段の問題がないのであればここは各社積極的な IR に努めるべきだろうと思われま

さて、11月1日のセミナーでもお話しさせて頂きましたが、IPO 銘柄投資にはおよそ3つのパターンがあります。①公募価格で IPO 銘柄に投資する。(良いと思われる銘柄はなかなか回ってこないのが現実的には機会がない。)、②公開初値で投資する。(初値は有望銘柄ほど高く通常は手が出せない。その後に値下がりがきつくなることもあるが、銘柄によってはその後に急騰することもある。)、③初値後の一定期間後の安値での投資。(安値をつけるタイミングを見出す困難さがある。) 結局、主たる投資チャンスは②と③になります。今年もこうした3パターンのどれかで投資された投資家の皆さんが大勢お見えかと思えます。運よく有望株の公募を得た場合はハッピーです。その多くは以下のようなマザーズか JASDAQ に上場した銘柄でした。

はてな(3930・3.8倍)、バリューゴルフ(3931・2.5倍)、チエル(3933・2.7倍)、ハイアス&カンパニー(6192・2.9倍)、グローバルウェイ(3936・4.7倍)、アトラエ(6194・2.4倍)、ホープ(6195・2.3倍)、ストライク(6196・2.3倍)、セラク(6199・2.6倍)、デュアルトップ(3469・2.3倍)、カナミック(3939・2.9倍)、バリューデザイン(3960・2.1倍)、シルバーエッグ(3961・2.9倍)、チェンジ(3962・2.5倍)、キャピタルアセットプランニング(3965・2.3倍)など初値が公開価格の2倍以上になった15銘柄で多大なリターンを得られた投資家の皆さんもお見えかも知れません。但し、運よく公開株が回ってきたとしても株数は限定されていて資産を極端に増やせたのかは不明です。

②の公開初値からの成果はまちまちだったものと思えます。このパターンでは比較的短期で2倍以上の値上がりを見せた銘柄は LITALICO(6187・2.3倍・2か月)、

東京 IPO 特別コラム

アカツキ（3932・4. 2倍・2か月）、エボラブルアジア（6191・2. 6倍・4か月）、農業総研（3541・4. 0倍・1か月）、VEGA（3542・2. 1倍・1か月）、リファインバース（6531・2. 3倍、3か月）、串カツ田中（3547・2. 1倍・1か月）、チェンジ（3962・2. 4倍・1か月）のマザーズ8銘柄です。この中では初値が公開価格を8%下回ったアカツキの値動きは異色でした。

③のパターンでは上場後2か月から3か月程度後に安値があって、その後株価がその2倍以上の水準になった銘柄としてヨシムラ HD（2884・2. 2倍）、ヒロセ通商（7185・4倍）、ストライク（6196・2. 6倍）などがあります。このうち、FX業者のヒロセ通商はJASDAQに上場する銘柄ですが為替の大幅変動で直近が高値をつけていて、安値から4倍もの水準になってきました。

こうした IPO 銘柄に対して成果が出ていない IPO 銘柄も比較的多く、中には公開価格を割り込んでいる銘柄も見られます。2016年の IPO 銘柄で一回も大幅高にならず公開価格や初値を割り込んだままの状態の銘柄としては、フィット（1436・公開価格比▲57. 7%）、富士ソフト SB（6188・同▲22. 8%）、UMC エレク（6615・同▲7. 9%）、グローバルグループ（6189・同▲0. 5%）、フェニックスバイオ（6190・同▲35. 3%）、イワキポンプ（6237・同▲2. 3%）、アイドマ（9466・同▲20. 6%）、ウイルプラス（3538・同▲15. 7%）、やまみ（2820・同▲8. 9%）、コメダ（3543・同▲11. 9%）、ソラスト（6197・同▲9. 0%）、デファクトスタンダード（3545・同▲13. 7%）、ベイカレント（6532・同▲24. 0%）、KH ネオケム（4189・同▲13. 3%）、アイモバイル（6535・同▲27. 0%）、岐阜造園（1438・同▲8. 0%）、パロックジャパンリミテッド（3548・同▲30. 6%）があります。

この中には上場後の業績発表が延期されるなどの論外の出来事があったフィットもありますが、多くは地味な業態で評価不足か、公開株数が多くて需給悪が見られる銘柄となっています。先般、業績の下方修正が見られたフェニックスバイオのような事例もあり、投資家はそうした銘柄にシビアな評価をしています。ただ、これらの中には業績が比較的堅調にも関わらず PER 面で低く評価されている銘柄がある点に注目したいと思います。公開後まだ間もなく十分な IR がなされていない銘柄もあって、認知度の向上とともに評価が高まる可能性もあります。決算内容の吟味が進むとともに株価が戻る展開が想定できる銘柄があると考えられます。敢えてこうした銘柄に積極的に投資する必要はないのかも知れませんが、業績内容をしっかり吟味して株価の割安性を確認した上での投資は有効かと思われれます。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）